

# イチゴのベンチ無仮植育苗の手引き



2004年11月

奈良県農業技術センター

# ベンチ無仮植育苗の注意点

## 1. ベンチの導入に際して

### <設置場所等>

- 1) 用水や圃場への運搬車の乗り入れなど、利便性を考慮して設置場所を決める。
- 2) ベンチの間隔は、運搬車が通れるように広めとする。
- 3) 通路やベンチ下の排水対策を行う。

### <設置規模>

親株あたり 100 株の子苗が確保できるとして、本圃 10 a あたり 50m 長のベンチが必要となる。

### <雨除け>

雨除けは必ずしも必要ではないが、一旦炭疽病がベンチ上で発生した際の拡大防止効果は大きい。このため、炭疽病初発時の速やかな対応ができない場合や炭疽病多発地帯でベンチを導入する場合には、雨除け下にベンチを設置することが望ましい。

雨除け施設は、高温を防止し快適な作業環境を確保するため、幅 6m 程度の腰高ハウス（ベンチを 2 列設置する場合）とする。また、かん水の自動化を図ることで乾燥を防止できる。

### <培地の確保>

培地にはおがくずを始め、容積比 8 割のもみ殻に対してピートモスを 2 割混合した培地や、もみ殻に 2 割のヤシ殻を上部に載せた培地等が使用できる。いずれの培地も経費は同程度である。

おがくずは国内産のヒノキとする。購入が春先に集中すると入手が困難になる場合があるので注意する。

また、もみ殻を主成分とする培地を用いる場合には、おがくずと比較し乾燥しやすいので、かん水を自動化することが望ましい。

### <防風対策>

無被覆の場合、ベンチ上の苗は、土耕に比べて風の影響を受けやすい。特に育苗初期は子苗が安定しにくい。このため、風の強い圃場では防風ネットの設置や支持具を用いた子苗の固定が必要となる。

### <用水>

川水は土壌伝染性病害の汚染の恐れがあるので使用しない。

## 2. 栽培管理について

### 1) 定植前のかん水

おがくずを培地として用いる場合は定植の 10～15 日以上前に入れ、こまめに何度もかん水して湿らせておく。

### 2) 排水対策

栽培槽の中央と端から下垂させた厚手の不織布により排水を促す。不織布は渡しパイプ間の中央に配置する。

### 3) 親株の定植

親株には無病苗を用いる。活着を促すため、定植時に植え穴周辺にポット用土を 2 リットル程度入れる。親株はベンチの片側の端に一行に植え、風の方向が一定の場合は風上側に植える。

株間は 50～60cm 程度とする。

#### 4)施肥

##### <基肥>

ロング 100 日タイプ：ベンチ 1m あたり 50g、全面に表層施用

IBS-1 号：親株あたり 15g、親株周辺に表層施用

##### <追肥>

IBS-1 号：1 月毎にベンチ 1m あたり 40～50g、ランナー伸長範囲に表層施用

固形肥料による追肥は 7 月下旬までとし、8 月以降は必要に応じ液肥を施用する。

##### <微量元素>

雨水等の用水では鉄欠乏が発生しやすいため、定植前にベンチ 1m あたり 5g 程度の FTE を全面に表層施用する。また、育苗途中で鉄欠乏が発生した場合には、微量元素入り液肥を施用する。

#### 5)ランナー整理

過繁茂は子苗の充実に悪影響を及ぼすので、子苗の発生数が多い場合には早めに親株を除去するとともにランナーカットを行う。

#### 6)病害虫防除

土耕無仮植育苗に準ずる。

ベンチ育苗においても炭疽病の発生は見られるので、炭疽病予防は怠らないようにする。

## 経 費

表．長さ 50m のベンチを作るのに要する費用

資 材 名	規 格	個数	単 価 (円)	金 額 (円)	備 考
直管(25mm) 支柱	110cm	172			
水平パイプ	5.5m	19			
沈下防止パイプ	5.5m	19			
渡しパイプ	135cm	84			
合計	5.5m	94	670	62,980	
直管(22mm) 天パイプ	5.5m	19	580	11,020	
クロスタイ	25 × 25mm	508	80	40,640	
コーナージョイント	22 × 22mm	90	80	7,200	
エキスパンドメタル(XS42)	182 × 91cm	42	1,320	55,440	14 枚は縦半分に切断
パッカー	22mm	170	30	5,100	
ポリマルチ(厚さ 0.05mm)	1.8 × 50m		18 (/m <sup>2</sup> )	1,630	一般的な販売単位は 1.8 × 100m
不織布(ラブリット-U)	10 × 30cm	166	530(/m <sup>2</sup> )	3,300	一般的な販売単位は 1 × 50m
	5 × 30cm	83			
計				187,310	

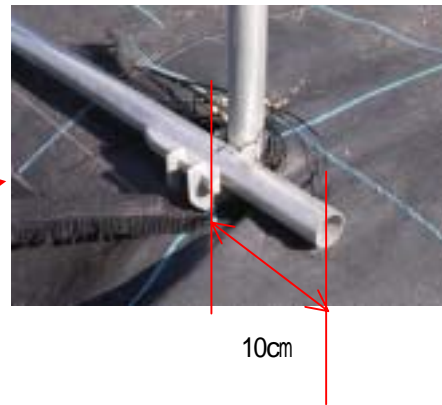
# 組み立ての手順

## 手順 1

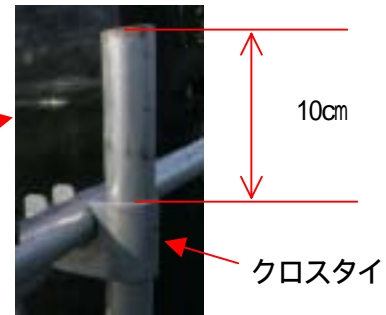


沈下防止パイプ

沈下防止パイプを添えて、支柱を 60cm 間隔で立てる。  
列間は内寸で 135cm とする。  
ベンチ高は作業者の体格に合わせて調節する。25cm 打ち込むとベンチの高さが 85cm となる。



## 手順 2



クロスタイ

支柱の先端から 10cm の位置にクロスタイの上端をあわせ、水平パイプを支柱に固定する。

## 手順 3



水平パイプの上に、渡しパイプをクロスタイで固定する。

#### 手順4

天パイプ



コーナージョイント

コーナージョイントを用いて、天パイプを支柱パイプの上部に1本おきに固定する。



#### 手順5

エキスパンドメタル



渡しパイプの上にエキスパンドメタルを載せる。

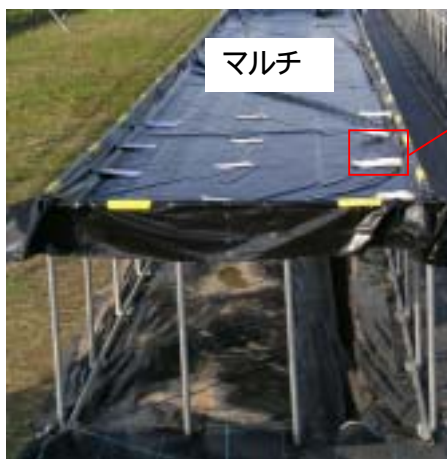
継ぎ目は数カ所を針金で固定する。

#### 手順6

マルチを敷き、パッカーで天パイプに固定する。

不織布

パッカー



厚手の不織布をベンチ両端と中央から垂らす。



培地を入れる。

